

柄谷行人 著

「世界共和国へ 資本＝ネーション＝国家を超えて」

学籍番号220781013 大重悠真

序章

本書「世界共和国へ」の目的は、歴史を通じて資本主義が世界に関与した歴史を分析

著者の柄谷行人は、現代の資本制社会、ネーション（国民）、国家システムに対して批判的視点を提供

1部 交換様式

この部では、経済活動が生産から交換へと進化した過程を説明

さらに、社会の構造を「交換様式」の観点から重要性を強調

人間社会の交換の始まりとその重要性について、交換様式を軸に、人類社会の面白さを強調

交換様式... 互酬、収奪・再分配、商品交換

原始社会における「互酬」は、人々の社会構造
例 狩猟採集社会での資源の分配

「収奪・再分配」は、国家の形成とともに支配者が資源を収奪、それを再分配する仕組み
例 古代帝国や封建社会

次に、市場経済における「商品交換」は、資本主義社会の基本構造、商品が市場で自由に交換されるシステム

国家は、単なる政治的な思想や観念ではなく、基本的な交換様式の変形・接合によって形成

2部 世界帝国

第2部では、共同体から国家への発展過程を探ります。

未開社会の共同体は、互酬的な関係に基づいていましたが、戦争や紛争を通じて国家が形成される過程で、収奪・再分配の交換様式が強調されるようになります

国家が形成される過程として、アジアの専制国家とギリシア・ローマの自由都市の比較を通じて、異なる国家形成の特徴を分析します。

アジアの専制国家は強力な中央集権を特徴とし、ギリシア・ローマは市民の自治を重視しました。

3部 世界経済

資本主義社会における資本と国家の関係について詳述されていました。資本主義の誕生は、貨幣と市場の発展と密接に関連しています。

貨幣の発明が商品交換を促進し、市場経済の形成を助けたことが論じられます。資本の蓄積と金融システムの発展が、近代国家の成立に大きく寄与しました。

資本主義社会とは

資本(企業)

国家

ネーション(国民)

が一体となって存在
社会の基本的な枠組みを作成

資本(企業): 経済の中心であり、利益を追求する存在

国家: 法や秩序を維持し、資本主義の制度や規制を提供

ネーション(国民): 国民としてのアイデンティティや共同体意識を持つ集団

この3つが一体となることで、社会には「想像的な経堂製」が生まれることで、人々は共同体としての一体感を得

結論

このように、「世界共和国へ」は、現代社会における国家と資本の役割を再評価し、未来の社会の可能性を探求するための重要な指針を示唆
その理論的展開は豊かであり、新しい視点を提供するものの、その実践における具体性には課題が残されていると供述